

2022年5月号

馬場川新聞

あなたも「めぶく。」しませんか？



BABAKKAWA URBAN DESIGN PROJECT

意見に 寄り添う

2022年2～3月、合計4回にわたって 地域のご関係者様と「意見交換会」開催

来年秋の馬場川通り遊歩道公園改修工事の竣工に向け進められている「馬場川通りアーバンデザインプロジェクト」。2022年2月～3月の期間で、地域関係者の皆様に具体的なご意見、ご要望をお聞きする「意見交換会」を計4回実施しました。

第1回の意見交換会では、まず本プロジェクトのマスターデザイナーである株式会社ランドスケープ・プラス 平賀氏より、コンセプトや昨年の説明会でのご意見などを反映したデザイン更新案をご説明いただきました。意見交換会では、通りが綺麗になることへの期待、歩車道が一体となったときの交通の安全性の心配、川に落とされるゴミ問題、長く滞在できるサードプレイス、全国から視察に来るようなものを作ってほしいなどご意見をいただきました。

そして第2回の意見交換会では、車と人の共存に対する不安が挙げられました。そこで、交通の安全性の向上のためにハンプ設置の実験などを検討していることや、デザインと運用の両面から関係者を巻き込んで引き続き検討することとなりました。

さらに、模型を囲んで行われた第3回では、交通の安全性とともに、さまざまな人の通りの快適性を検証すべく、車椅子を準備して、近隣にあるレンガ敷きの道路で動作検証を行いました。改修後の運用管理については、馬場川通り親交会を中心に決めていくことが重要であるという意見が出されました。また現状の運営課題として、一部の方に日常の管理が集中していることが問題点として挙がり、できれば協力したいとのご意見もいただきました。



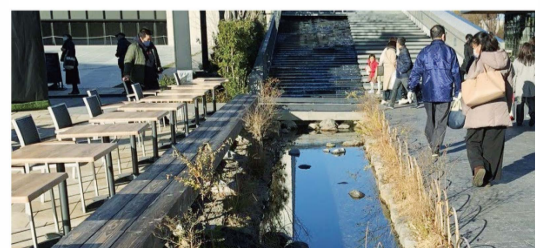
多くの方にご参加いただけるように意見交換会は昼の部・夜の部も実施

最後に第4回の意見交換会では、第1～3回までの意見をまとめて、ご参加いただけなかった人にもデザインや交通の課題について共有しました。また、中央通りと馬場川通りの交差点にあるトイレの改修については、男女の区別なく誰もが快適に利用できる「世界基準のユニバーサルトイレ」の導入について検討していることも報告され、不特定の男女が空間を共有するため犯罪面などの不安があることや、混雑時を考慮して男性小便器も必要ではないか、などの意見が出されました。これら通りの安全性や快適性、そして環境への配慮、さらに文化的な活動に対する意見は、並行して開催されている準備委員会にて具体化が進められました。

ケーススタディを学ぶ「参考事例見学会」を実施

2022年1月12日、本プロジェクトのマスターデザインを依頼する株式会社ランドスケープ・プラスの実績である「グリーンスプリングス(東京都立川市)」を見学しました。この事例は2021年度の「グッドデザイン賞」、「日本空間デザイン賞」を受賞していて、商業街のなかにありながら豊富な緑と高い親水性など馬場川通りが目指す姿として参考になる事例です。

まず立川の歴史や風土に立脚する施設のコンセプトなど説明をお聞きし、実際に施設を見学しました。親水デッキ、落下防止のための工夫、小川沿いのベンチやテーブルを体感。ローカル木材が規格化され、様々なベンチとして展開されていました。特に施設中央の公園部分は馬場川に応用できそうなアイデアが多くありました。



馬場川通りの価値を、継続的に向上させるには？

2022年3月～5月の期間、地域関係者向けの意見交換会と並行して、第2期となる「馬場川通りアーバンデザインプロジェクト準備委員会」を計5回実施しました。5月の末の社会実験に向けてオンラインで開催され、馬場川通りの継続的な価値向上を具体化する取り組みです。意見交換会の総括もふまえ、環境、文化、安心という3つのテーマで進められました。

まず第1回の準備委員会では、テーマごとにチーム分けが行われました。また、委員会メンバー間で簡単にアイデアの共有や意見交換ができるように、LINEの「オープンチャット」を活用することで、チーム内での活発なやりとりにつながりました。そして第2～5回は、各チーム内でアイデアを議論し、5月末の社会実験での取り組みをカタチにしていきました。馬場川通り親交会の北原会長から「皆さんの柔軟なアイデアに感心し、親交会としても心強い」とご感想もいただきました。



1. 環境
水と緑を活かす

2. 文化
子供・教育・芸術

3. 安心
通りの安全性や
快適性

○環境チーム

「流水を聴きながら働けるコワーキングスペース」「環境分野のシンポジウムを近くの大学と共同開催」「個人的なストリートファニチャーの設置」などのアイデアが出されました。継続的に馬場川の美観を保つ為には、改修後の維持管理が課題です。そのなかで馬場川通りの緑化環境を地域に関わる人や訪れる人が参加して管理する案が挙げられ、スタートとして緑をどのように楽しみたいかを投票してもらい、投票結果を馬場川の植栽に反映させることなどが検討されました。

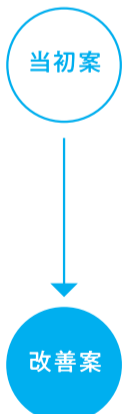
○文化チーム

「キッズニアのような商店街の体験」「街の至る場所で音楽を体験できるようなイベントをしたい!」などのアイデアが挙がりました。アーツ前橋と連携するために、独自に打合せを重ねたり、まちの活性化のために地域でチンドン屋をしている北原さんにお話をお聞きしたりして議論しました。「馬場川通りにある文化を、多くの人に知ってもらうこと」というテーマで、地域にある子供図書館やアーツ前橋と連携したワークショップや、また音楽に関してジャンルや主体となる飲食店や学校をどう巻き込めるかを検討しました。

○安心チーム

「交通についてもアートを掛け合わせて速度制限させたり、標語などで心理的に速度を落とさせたりすること」などのアイデアが出されました。車の通過速度が速いことや通りの明るさが暗いことが課題として挙がっています。道のスラローム化や看板を立てて速度を落としてもらえらる方法が議論されました。防犯という切り口では、夜間の不安を手作りペットボトルライトのイルミネーションで解決する案も挙がり、また公園として機能を持っていることから防災の観点で避難訓練などを継続的にを行い、市民の災害意識向上につなげる案も検討されました。

デザイン案の改善 (2/10時点)



水との距離を縮めるために
デッキで一段下げる



安全性を考慮し、
注意喚起柵を設置



電力の地上機がある箇所は、
デッキが狭くなる



カウンターテーブルにもなる
腰高の柵を設置



素敵な環境だが、
デッキの奥行きが狭く不安の声も



デッキ部分を伸ばし、
注意喚起柵を設置

今月末の土日、5月28日・29日、
新しく生まれ変わる
馬場川通りを体感しよう。

本イベントは、馬場川通り公園改修をきっかけとした
「まちづかい」を継続するための社会実験として実施されます。



詳しくは /
チラシまたは
ホームページで

